

第12回黒島小中学校検討委員会議事録

1 日 時 平成29年12月4日(火) 19:00~20:30

2 場 所 黒島小・中学校 校長室

3 参加者 濱田・牧野・大村・山内・松崎・惣田・高田・木下・山崎・戸田
計10名(欠席:古里・田代・鶴崎) ※敬称略

4 校長挨拶

- 一つの学校にあると言うことで、学校も先生達と協議を進めている。ジャージ・体操服についても協議内容をお知らせしていく。
- 市教委へ問い合わせていた内容について、回答があった部分についてはお知らせする。
- 平成30年度運動会実施についても前向きに教育委員会が動いているとのこと。時期を見て説明に来たいとのこと。

4 協議事項

(1) 新体育館の校章のモニュメントについて

- 竹原さんと協議して、別紙の通りのデザインを無償で作成していただいた。外にあるもので、焼けてしまう物なので、白っぽい物より資料のような物がよいとのこと。

(2) 市PTA研究協議会の広告について

- 広告ということで、育友会の鶴崎会長と協議して、A4版の1/8サイズで別紙資料の通り掲載することとした。浅子小中学校にも情報提供はしたが、浅子は校章変更していないので掲載はしないとのこと。

(3) 義務教育学校周知のための看板と幟(のぼり)について

- 「長崎県初の義務教育学校」、「正式名、黒島小中学校」、「愛称名、黒島はまゆう学園」、次年度の学校経営方針からの「9年間を通して児童生徒を育みます」、「ふるさとを愛し、未来を切り開く黒島っ子」を入れた。バックは九十九島の海・島・空。
- 看板の横のバックの写真に高島しか見えない。左に黒島がある。黒島が写っている写真があるはず。せつかくなら黒島が写っている写真の方がよい。
- 黒島だけを写している写真もある。
- 小佐々地区のコミュニティースクールの看板の背景は普通の一色。背景を写真にしても変わらないと言うこと。発注先は小佐々町の木田看板の予定。
- 幟(のぼり)は校章が上の方がよいのではないか。
- 校章はバックが白。なので、グラデーションで上を白にすれば可能。
- 幟は何枚作成予定か。→30枚。
- 藤村商店から小学校の玄関近くまでに設置するとなると24本が必要。予備を考慮して30本。ここが黒島の中で一番目立つ。本年度の特色ある学校づくりから支出予

定。次年度の同様の予算で、今度ははまゆう坂に設置したい。

○新校舎の入った外壁が真っ黒で一面になっている。ここに次年度の予算で看板を設置できればよい。

(4) 義務教育学校周知のための町内配付用チラシについて

○町内の全家庭に周知することが目的。

○殺風景な内容の文字だらけのものだが、業者が写真を入れたりイラストを入れたりしてくれる。文字の大きさも大きめにしている。

○文字の量がやや多いが、内容はこれでよい。

○PTA研究大会の広告紙と、周知チラシの、校章の鳥の意味のニュアンスが微妙に違う。→正しいのはチラシ。広告はもうすでに発注済みなので、これでよい。チラシの方が大切。

○背景に新校舎のドローンの写真などを入れることができればよい。→現在建築中なので難しい。

(5) 次年度の新校舎落成式

○案として二つある。一つ目はペーパーウェイト(ガラスの文鎮)が1個で640円。二つ目が缶バッジ750円。ポリプロピレンの袋に旧校章2個と新校章1個の3個を入れて、説明の紙を入れる。

○教育委員会もこのどちらかの費用は出してくれるとのこと。

○鶴崎育友会長とも協議したところ、育友会の特別会計もこのために積み上げてきたので、ここで使わなければ、他に使うことは無いと思うので、ここで使いたいとのことだった。→全員その方針で賛同。

○落成式で参加者に配付する8ページのリーフレットも教育委員会が予算は支出する予定。内容は、旧校舎の写真などの思い出を振り返ることができる内容や、新しい学校としての紹介。

○育友会が支出して記念となる物は、育友会で決めていく。今回示したのはあくまで案である。

○来年10月くらいに落成式を予定している。その時に間に合わせるためには、夏休みまでには決定しておいた方がよい。

(6) 議事録について

(7) 委員会便りにについて

(8) その他

○TAKAHIROへの依頼は、教育長から観光物産振興局まで依頼はできているとのこと。

○必要であれば、ビデオレターや手紙などという方法もある。

○学校からだけではなく、地域からも依頼があれば、物事が動くこともある。

○これまでの確認。

・学校名(正式名)は黒島小中学校。

・校区は今まで通り。義務教育学校だからと行って

- ・今年度末は卒業式。来年度は、6年生は前期課程修了式で、9年生が卒業式となる。
 - ・平成30年度の入学式のみ、1年生も7年生も入学式。小学校6年生で一度卒業しているので、入学させなければならないため。それ以降は、1年生は入学式。7年生は後期課程進級式となる。
 - ・卒業証書も6年生は
 - ・服装（制服）は、学校判断とのこと。今のところこれまで通り7年生から制服。
 - ・研究発表に行った京都の大原学院は小学5年生から制服。奈良の学校は全て私服。派手な私服ではなかったが、高校生や大学生のようだった。
 - ・小学校の免許だけを持った先生は、中学校の指導には入れない。小学校の教員が中学校の部活指導に入ることも考えられるということ。
 - ・中学校の先生は小学校の担任はできるが、自分が持っている教科の指導しかできない。
 - ・教頭二人は今までどおり配置されることが基本だが、学級数が減少すると一人になる可能性がある。
 - ・今後の予算については、市教委か学校が負担する。保護者負担等はない。
 - ・落成式の時の黒島港から学校までのマイクロバス2台の予算は市教委。
 - ・落成式の記念品の予算も学校予算。
- 運動場について。最初は6月から開始して11月までかかるということだった。しかし、教育総務課長・教育長も考慮して、9月中に終わらせ、間に合わせるようにしたいとのこと。
- 1月のあり方検討委員会の際に市教委が来て、説明にも来る。
- 体育館の高さ、端っこは8メートル、真ん中が13メートルということだった。ところが、鉄骨が来ているため、真ん中も8メートルくらいしかない。バドミントンをする上で、不都合が出てくる。
- 文化的景観の都合上、高くできなかったのは仕方ない。
- 可能なら、次回市教委が来る前に内部を見ることができればありがたい。
- いろいろと最初にできると説明したもので、できなくなったものが多い。消防法など、最初からわかっていたのではないのか、と思う。
- 体育館はとても広い。雨で運動会ができない時は体育館で運動会ができるほど広い。黒島町民全員が体育館の半分に入ることができる。
- 小学校の名札も案を決定した。以前のこの会で話があったように、「黒島はまゆう学園」で作成した。今は布だが、校章を正しく反映させたいということで、今回は紙にした。
- 紙だけ販売してもらえるのか。洗濯した時、困るので。一枚80円、セットで。
- 中学校は「黒島中」というところが「黒島はまゆう学園」とする。今のプラスチックを流用する。今後協議する。小学校と中学校では発注先が違う。子どもの発達段階を考慮して、一緒にすることはない。小学生は名札の裏に保護者名や連絡先が書いてあ

る。

- 組はいらないのではないかと。テストのこともあり、やはり必要。たとえクラスであっても、一組と入れる。
- ジャージについては、昨年度、生徒・職員アンケート結果をもとにして決めた。ジャージに合うもので、同じメーカーで小学生のサイズもあるものから選んだ。ジャージはセミハーフの紺色。新ジャージとの組み合わせもこれならよい。児童生徒や保護者にも今回はアンケートはとらない。体操服の上には校章が左胸に入る。袖にローマ字で名前が入る。ハーフパンツもローマ字で名前を入れる。黒島はまゆう学園もローマ字で小さめに首の下あたりに入れる。金額によっては、左胸にも入れることも考えていく。ジャージの下にもネームを入れる。
- 小学生も、中学生のジャージを購入して着る、兄や姉からのお下がりを着ることも可能。絶対購入させるということではなく、購入することを禁止する物ではないと考えている。
- 名前はローマ字で入れる予定。
- 体操服は9年間で3～4回買い換えるし、予備で2枚は買う。
- 次回は教育委員会から説明がある。

6 閉会挨拶

- 開校に向けていろいろと決まってきた。開校後もいろいろと出てくるかもしれないが、そのときはよろしくお願ひしたい。

以 上